

ともに先へ、先へ。

民主党 参議院比例区第65総支部総支部長

参議院議員 **えさきたかし**



えさきたかしの「がんばるバイ」No.40

国民を愚弄する政治姿勢を許してはならない



平成 26 年度予算案の審議は、2 月 28 日に衆議院での議論が終了、3 月 3 日から舞台を参議院に移して審議が始まりました。とはいえ、「衆議院での予算成立後 30 日で自然成立」という予算のルールがあるため、今月中に新年度予算は成立することになります。

すべて与党のペースで国会が進められています。特に、衆議院の予算委員会では、維新の会が与党側についたため、民主党の予算理事である長妻議員がどんなに頑張っても、主張が通らない、という状況でした。

2 月 7 日 参議院総務委員会にて補正予算の質疑

「予算」とは、先に金額ありきでなく、まずやるべき事柄があって、それにいくら費用がかかるのか、財源をどうつけるのかを議論するものです。ですからまず、事柄事態を「今やるべきこと」か否かから審議する必要があります。この予算委員会で審議すべきことは、集団的自衛権の解釈変更や安保法制懇での議論の内容、年金や医療・介護などの社会保障制度、中韓などを含む外交問題、消費税引き上げ後の経済政策、震災復興、NHKの会長や経営委員など国営放送の在り方、非正規雇用の問題を含む労働関係などなど、数え切れないほどの国政の課題が山積しているのに、十分な審議時間が確保できていません。

加えて、安倍総理の答弁は、答弁席から野党側に逆に質問したり、挑発したりするなど、行政の最高責任者の姿勢として考えられないほど傲岸不遜な態度で委員会に臨んでいます。維新の会やみんなの党など、与党に擦り寄る党からの質問には丁寧に応えますが、それ以外の野党の質問には紋切り型の答弁が目立ちます。この総理は、与党に加えて協力する一部野党がいれば、議会など軽視しても良いと考えているのでしょうか。その行為自体が国民を愚弄していることに気がつかないのでしょうか。

安倍総理は、自身の著書「美しい国へ」の中で、「政治家には『闘う政治家』と『闘わない政治家』がいる。『闘う政治家』とは、ここ一番、国家のため、国民のためとあれば、批判を恐れず行動する政治家である。私はつねに『闘う政治家』でありたい。」と述べています。自分が国家国民のためと思えば、どんな批判があってもその実現のために突き進む、というのです。あるマスコミの政治部長は、これを評し「一人の政治家として思うのは結構だが、最高権力者である場合は、国民にとっては不幸なことではない」と指摘していました。

最近、夏には内閣改造をするとの報道がありましたが、これは「俺の言うことを聞かないものは閣外に外す」とのサインであると言われています。

古賀誠元自民党幹事長が、『これが首相の思いだ』という錦の旗だけで、みんなが首相のポチさんになっている」「安倍政権で右傾化が進んでいるが、どう抑止していくかだ。自民党の保守本流の先生方に頑張ってもらいたい」と自民党に対し苦言を呈する発言をしましたが、自民党内の状況は相当深刻なようです。誰も安倍総理にスズをつけられないのです。

いよいよ安倍氏は唯我独尊、孤立を深めていくことに違いありません。その時に、国民がハッキリと NO と言える状況を作り出していくことが肝要です。安保法制懇での議論などに対抗できるよう、我々も理論武装を強めてまいります。

2014 年 3 月 12 日 えさきたかしの「がんばるバイ」No.40